

アゼルバイジャンの輸送ハブ化～BTK 鉄道の活用～

BTK 鉄道は、バクー・トビリシ(ジョージア)・カルス(トルコ)を結ぶ鉄道路線で 2017 年 10 月 30 日より運行が開始されました。カスピ海の港湾都市バクーとジョージアの首都トビリシ、トルコ東部のカルスをつなぐ総延長 826 キロの鉄道路線で、中国から中央アジア、コーカサス、トルコを経由して欧州につなぐ大動脈の中心となることが期待され敷設されました。

1. アゼルバイジャンにおける BTK 鉄道の位置付け

BTK 鉄道路線建設事業は、コーカサスにおける輸送ハブ化を目指すアゼルバイジャン政府が積極的に推進した事業です。本事業により、アルハカラキ(ジョージア)からカルスまで鉄道が延伸され、カルスからはトルコ国内の鉄道に接続しています。このことにより、トルコのイスタンブールや、地中海に面する港町であるメルシン(トルコ)からバクー、さらにカスピ海を横断してカザフスタン、中国の青島まで続く鉄道輸送網となりました。

また、BTK 鉄道開通により、トルコとロシア間の鉄道輸送も可能になりました。これまで、ロシアの内陸にあるウラル連邦管区チェリャビンスク州マグニトゴルスクから、トルコの地中海沿岸の都市パヤスまで、陸上輸送、海上輸送を組み合わせると 30 日を要していましたが、BTK 鉄道開通により 17 日に短縮されました。加えて、海上輸送と異なり天候の影響を受けにくいことから BTK 鉄道のオペレーターでアゼルバイジャン鉄道の子会社 ADY エクスプレスは「早く、便利で安全」であることを謳っています。

2020 年11月時点で、BTK 鉄道の累積輸送実績は、13,740 両のコンテナと 685,000 トンの貨物となっており、貨物輸送におけるリージョナルハブとしての実績を少しずつ積み上げています。

2. BTK 鉄道を活用した輸送ルート

上述の通り、BTK 鉄道を活用したルートの輸送実績が積み上げられており、輸送ハブとしてのアゼルバイジャンにとって BTK 鉄道がいかに重要な鉄道路線であるかが見えてきます。

以下は、輸送区間の例です。

- イスタンブール/メルシン⇄トビリシ⇄バクー/アラト港⇄アクタウ港(カザフスタン)⇄西安/青島(中国)
- タシケント(ウズベキスタン)⇄バクー/アラト港⇄イスケンデルン(トルコ)
- ブハラ(ウズベキスタン)⇄トルクメンバシ港(トルクメニスタン)⇄バクー/アラト港⇄メルシン
- マグニトゴルスク⇄バクー/アラト港⇄トビリシ⇄パヤス(トルコ)

(以上)